

口は健康のもと Vol.80 口の中の「がん」その1

早期発見によく見て

毎日見ている口の中。でも、よく見てください。歯茎や頬の内側にただれはありませんか？ 口の中にも「がん」はできるのです。

体の中のがんは見えません。自覚症状が出たときは「手遅れ」だったということもあります。人間ドックや多くのがん検診があるのはそのためです。

さて、口の中に戻りましょう。「自分の口の中」を見るとき、なにを見ますか？ まず、「歯」を見たのではないのでしょうか。

「痛みが出てから歯医者さんに行く」。それが「手遅れ」だということが分かり、歯科検診を受ける方が増えました。食事や歯磨きのときに、自分でむし歯や歯周病と診断し、歯科医院に足を運ぶ方々もいます。

口の中のがんも早く発見することが大切なので、「口腔がん検診」を行う自治体が増えています。口の中のがんも最初は小さな斑点や口内炎、切り傷やタダレに見えるものが多く、痛みもほとんどありません。

それは口の中の大部分を占める舌、頬、口蓋、口腔底などの粘膜組織に現れます。痛みが出て「手遅れ」になる前に、口の中で見落としている場所が沢山あるはず。毎日見ている口の中をもう一度よく見て、「がん」の早期発見に努めましょう。

ことし3月から口腔外科相談窓口を設けました。少しでも気になったら、気軽にご相談ください。



奥羽大学歯学部附属病院

口腔外科 教授 高田 訓

